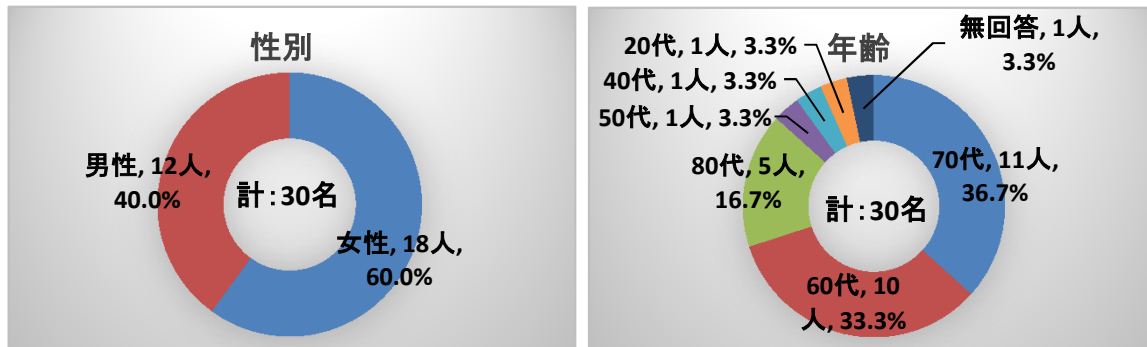


「在宅医療啓発講座in谷田部」 アンケート集計結果

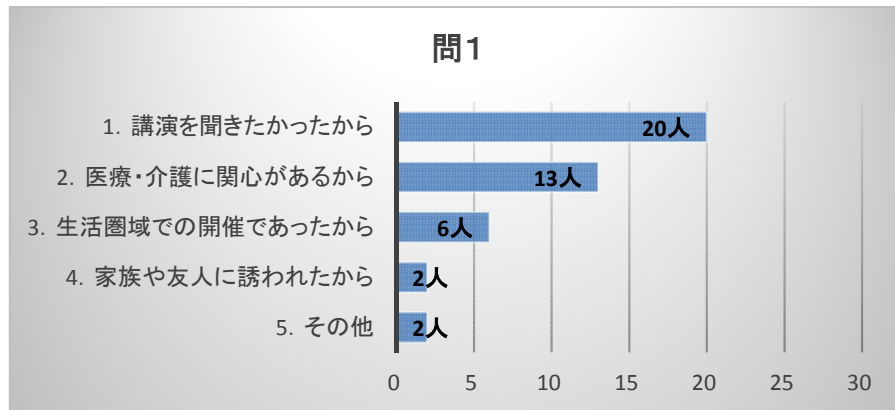
実施日 平成30年3月16日

基本情報 性別・年齢



●本日の講座に関して●

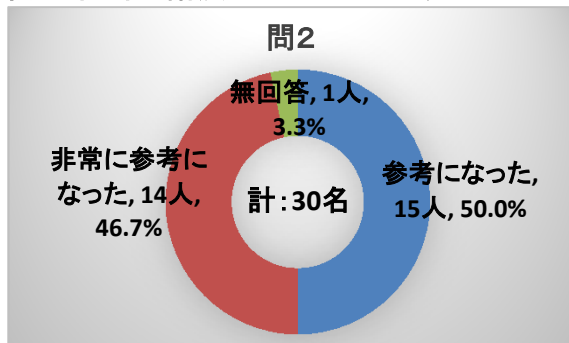
問1 在宅医療啓発講座に参加しようと思ったきっかけは何ですか。(複数回答可)



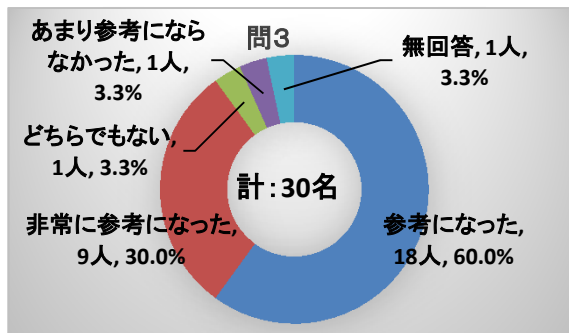
問1「その他」記述内容

親が成島クリニックに通院しているから
介護者(おば)がいる為(介護制度を知りたかった為)

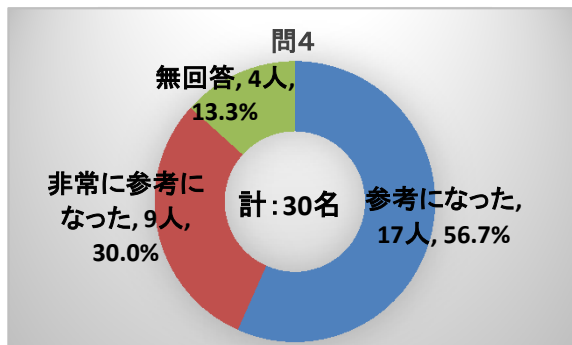
問2 医師の講演についてどのように感じましたか。



問3 ケアマネージャーの講演についてどのように感じましたか。



問4 講師とのディスカッションについてどのように感じましたか。



問5 意見・感想

医師に介護等の要望を伝えるどんな願い要望が出来るのか、病人本人にとってどんな要望が幸せなのか。難しいですね。無知は罪なりといいますが今回本講座で知ったことが多くありました。知ったことで今後親に対して適切で最善な対応ができるなあと感じました。”情報難民”をなくすことも大切ですね。また同じような講座をぜひお願いします。

介護保険制度の資料がわかりやすく今後活用しようと思いました。

たいへん参考になりました。

在宅医療に関わる第一歩として参考になりました。今後この先のことに関わる講座があれば参加したいです。

このような講座をもっと開催するとよい

成島先生のお話は発音もはっきりされていてわかりやすかったです。

たいへん参考になりありがとうございました。友人と一緒に講座を受け健康で暮らせる現在ですがとても参考になりました。

とても参考になりました。

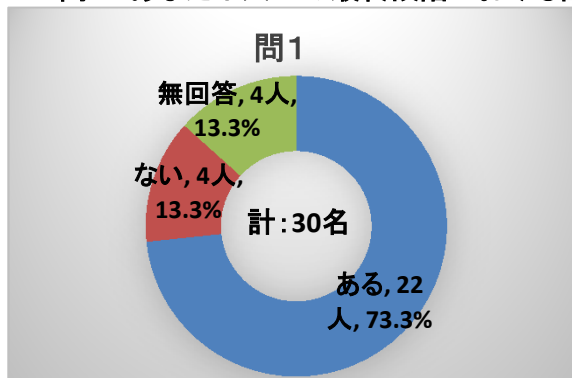
大変参考になり、ありがとうございました。

初めて参加させていただきました。ほとんど知りませんでしたのでこれからも機会がありましたら参加させてください。

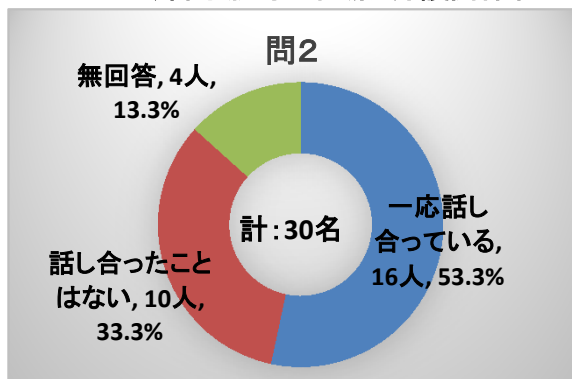
中々に明快なお話して本当に役に立ちました。ありがとうございました。

●人生の最終段階における医療・療養について●

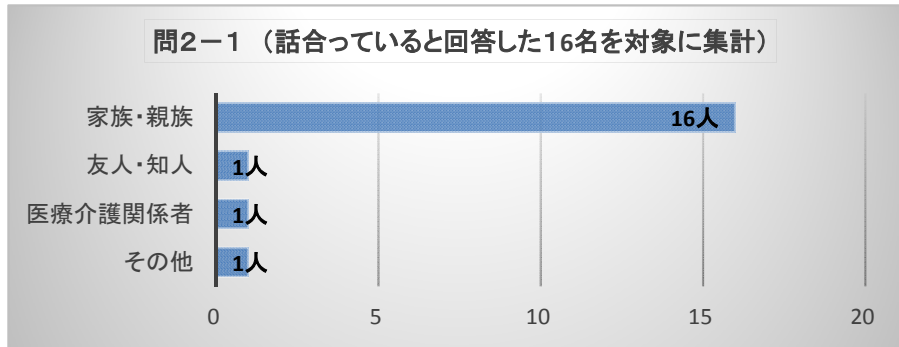
問1 あなたは人生の最終段階における医療・療養についてこれまで考えたことがありますか。



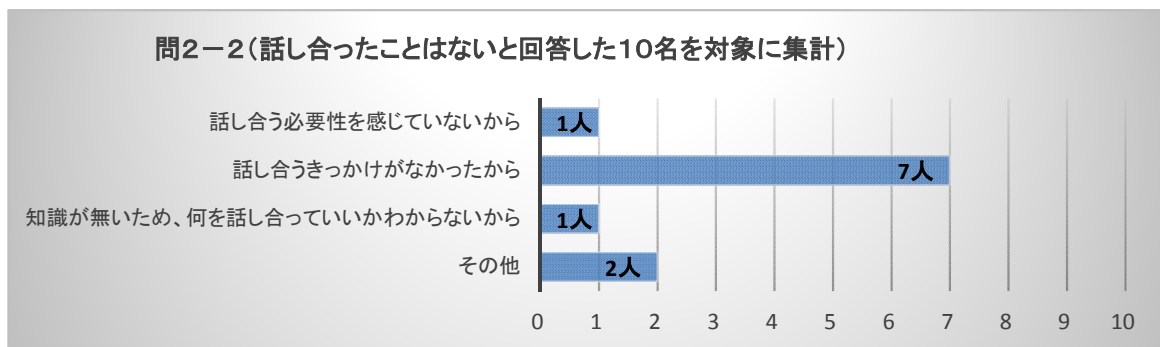
問2 あなたの人生の最終段階に受けたい医療・療養や受けたくない医療・療養について、御家族等や医療・介護関係者とどのくらい話し合ったことがありますか。



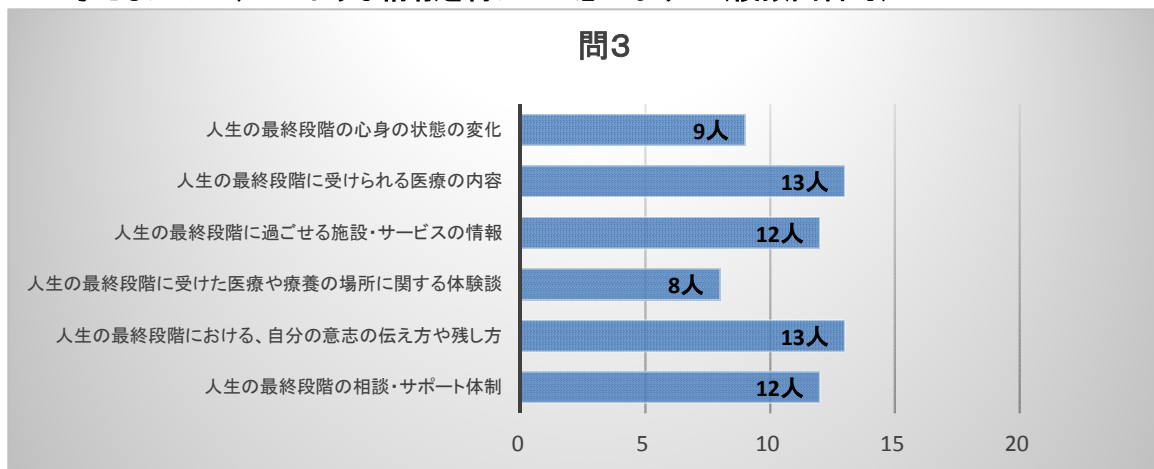
問2-1 問2で「詳しく話し合っている」「一応話し合っている」と回答の方にお尋ねします。どなたと話し合いましたか。(複数回答可)



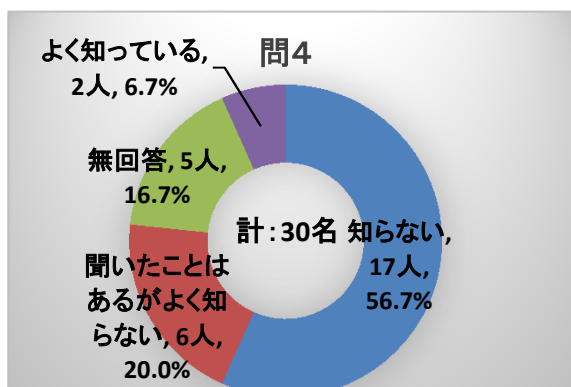
問2-2 問2で「話し合ったことはない」と回答の方にお尋ねします。これまで話し合ったことはない理由は何ですか。(複数回答可)



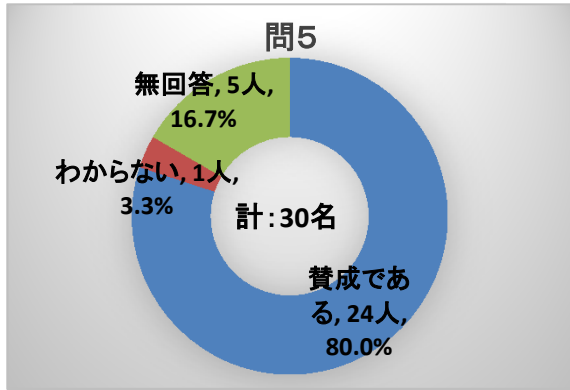
問3 あなたの人生の最終段階の受けたい医療・療養や受けたくない医療・療養を考えるために、どのような情報を得たいと思いますか(複数回答可)



問4 あなたはアドバンス・ケア・プランニング(ACP)について知っていますか。

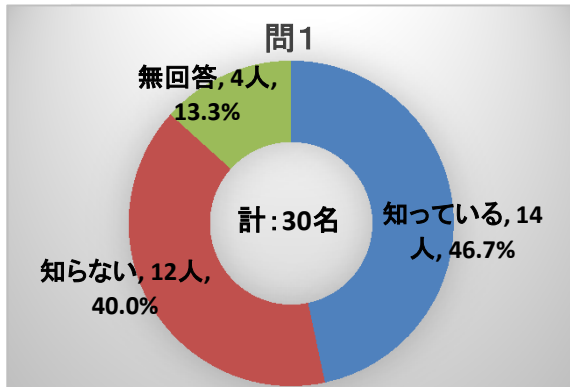


問5 人生の最終段階の医療・療養について、あなたの医師に沿った医療・療養を受けるためには、御家族や医療関係者等とあらかじめ話し合い、また繰り返し話し合うこと(アドバンス・ケア・プランニング(ACP))が重要と言われています。このような話し合いを進めることについて、あなたはごどう思いますか。



●救急について●

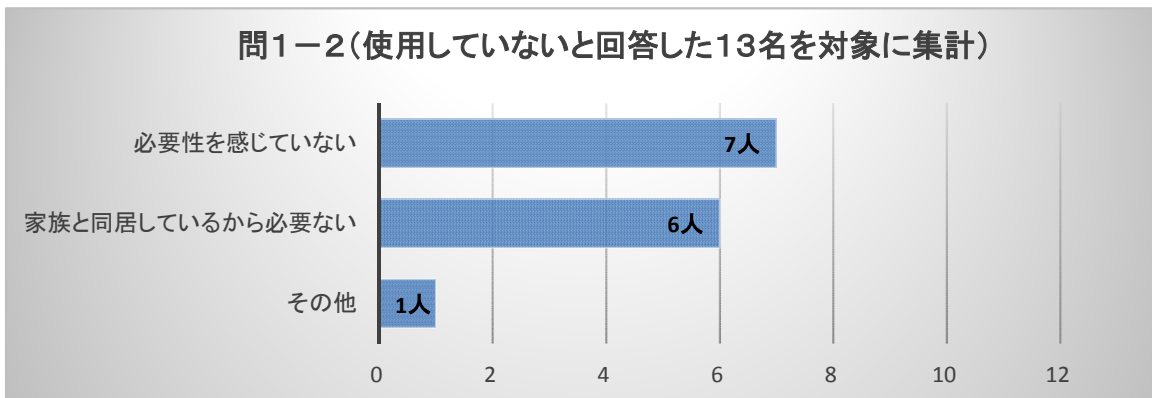
問1 「つくば市救急医療情報便ツクツク見守りたい」をご存知ですか。



問1-1 問1で「知っている」と回答の方にお尋ねします。「つくば市救急医療情報便ツクツク見守りたい」を使用していますか。

使用している	1
使用していない	13

問1-2 問1-1で「使用していない」と回答の方にお尋ねします。使用に至らなかった理由は何ですか。(複数回答可)

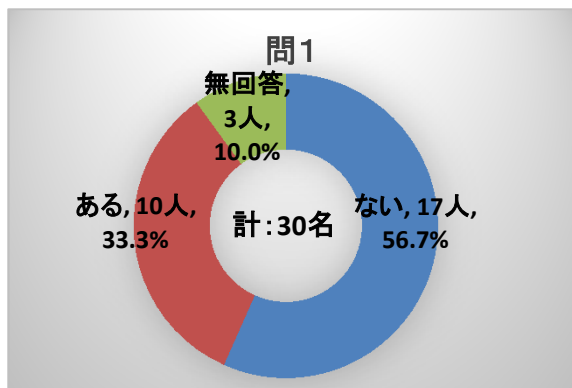


その他内容

書き忘れていました。今後準備しておきたい。

●看取りについて●

問1 自宅で御家族を看取った経験がありますか。



問1-1 問1で「ある」と回答の方にお尋ねします。自宅で御家族を看取った際に困ったことや、問題になったことがありましたらご自由にお書きください。

父(78歳)を家族で看取りました。訪問の医師が何回か来てくださいました。ある日先生から「終末期に入りましたのであと3~4日だと思われます。誤嚥防止の為、「水」を飲ませないように指導がありました。父はまぶたをピクッと動かしたり、綿のワタを湿らせて口元を濡らすと父は魚のように口をパクパクし始めてのどが渴いている様子を見るのが大変心苦しかったです。あと数日の寿命にしても何も食べ物をあげられない水も飲ませてあげられないことへのいら立ちや悲しさでいっぱいでした。医師は専門的な指導だけでなく終末期の本人の体の仕組みや家族が心安らぐようなアドバイスもいただけたと良かったのかなと思いました。

自宅で家族を看取る場合に病院で計画的に管理された看護ができない。

平成7年に主人退職し、肺気胸を患い平成26年12月末に亡くなるまで介護生活送りました。在宅医療と介護のサービスの対応に感謝いたします。ケアマネージャーの方々に大変お世話になりました。現在79歳元気で家族と生活できることに大感謝です。

一日中を看て1カ月1人では疲れました。最後は先生が入院させてはと言ってくれましたが大変でした。

とても良い先生に見ていただきましたので何でも相談することが出来ました。